

令和 7 年度第 1 回小美玉市行財政改革懇談会・会議記録

会 議 の 名 称	令和 7 年度第 1 回小美玉市行財政改革懇談会
開 催 日 時	令和 7 年 1 0 月 3 0 日（木）
開 催 場 所	小美玉市役所 本庁 政策会議室
協 議 事 項	（１）第 4 次行財政改革実施計画（集中改革プラン）の令和 6 年度実績報告 （２）小美玉市デジタル・トランスフォーメーション（D X）推進計画（実施計画）の令和 6 年度進捗状況報告 （３）小美玉市行革・D X 推進計画（素案）について
会 議 資 料	資料 1 令和 6 年度 第 4 次行財政改革集中改革プランの取組実績（概要） 資料 2 第 4 次行財政改革集中プラン進行管理シート（令和 6 年度実績） 資料 3 小美玉市 D X 推進計画（実施計画）令和 6 年度進捗状況報告（概要） 資料 4 小美玉市行革・D X 推進計画（素案）
記 録 方 法	☐ 全文記録 ☐ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☒ 会議内容の要点記録
公開・非公開の別	☐ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開 （傍聴者 人）
審 議 の 内 容 （審議経過、結論等）	
協議事項 1 第 4 次行財政改革実施計画（集中改革プラン）の令和 6 年度実績報告 【資料 1 令和 6 年度 第 4 次行財政改革集中改革プランの取組実績（概要）】 【資料 2 第 4 次行財政改革集中プラン進行管理シート（令和 6 年度実績）】 〈事務局〉「1. 主な財政効果」について。令和 6 年度の財政効果額は、約 7 億 1,500 万円と算出。歳入効果額は約 6 億 2,600 万円、歳出効果額は約 8,900 万円と算出。「2. 歳入効果額」について。約 6 億 2,600 万円の主な理由は、受付サイトやふるさと納税の返礼品を拡充したこと、ふるさと納税制度の研修会を開催し、有志職員の提案を返礼品化したことにより、ふるさと納税額が増額した。また、新たにネーミングライツ対象施設として、四季健康館や希望ヶ丘公園が加わったことにより、広告収入が増額した。「3. 歳出効果額」について。約 8,900 万円の主な理由は、廃止施設の借地を返還したことにより借地料が減少した。また、市単独補助金額について、令和 5 年度より附属機関を設置し、補助金等の見直しに着手した結果、会計処理の精査や負担金、事業費への移行などにより減少した。なお、前年度に比べ、あまり歳出効果額が算出されなかった要因として、人件費の高騰が挙げられる。大幅なベースアップにより人件費が増加したため、歳出効果額が大幅にマイナスとなった。「4. 主な取組内容」について。「No.4 投票事務の効率化」で、38 投票区を 22 投票区に削減した。削減したことで、投票所にかかる人件費などの経費が大きく削減された。なお、投票所統合の対策の一つとして、市内のスーパーなどで移動期日前投票所を開設し、外出時の投票機会の提供に繋げた。「5. 進捗状況が不十分な取組み内容」について。「No.17：時間外勤務の縮減」につきまして、毎週木曜日を定時退庁日とし、退庁管理推進日や定時退庁週間を実施したが、令和 5 年度と比較し、1,186 時間削減できたが、令和元年度に比べ、時間外勤務総時間で 2,859 時間、時間外勤務手	

当で約 1,100 万円増加した。前年度より時間や手当が削減されたが、目標値を超過しているため、長時間の時間外労働者への産業医面接指導、管理者への報告・改善要請について更なる働きかけが必要であると考える。

《質疑》

〈委員〉夜間の施設管理等の体制は安全面を考慮して 2 人以上の体制がいいと考える。例えば民間の工場では、機械に挟まれてしまった場合等のために一人にはしない。安全対策という観点から、人員の削減はあまりよろしくないと考える。

〈委員〉「No.5 イベント等の見直し」について、補助金等の見直しの観点からも見直しを進めていくとのことだが、イベントも集客数は減少しており、団体も高齢化が進み構成員の人数も減っていくことから、まだまだ見直せる部分はあるのではないかと思う。

→〈事務局〉令和 5 年度より、補助金等審議会を立ち上げ、団体補助金の見直しに着手している。イベントに対する事業補助金の見直しには着手できていないが、今後見直しの対象を拡充していきたいと考えている。

〈委員〉「No.17 時間外勤務の縮減」について、基準となる数値がなぜ令和元年度のものなのか。また、時間外勤務が増加していることから、何か改善策は計画に入っているのか。

→〈事務局〉第 4 次行財政改革大綱及び実施計画は令和 3 年からの計画になり、策定時は令和 2 年度であった。そのため、確定している最新の数値が令和元年度であったので、基準となる数値は令和元年度となっている。業務改善については、DX 推進計画に盛り込んでいる。

〈会長〉時間外勤務はやらざるを得ない部分もあると思うが、時間外勤務の内容の精査もぜひ行っていただきたい。また、ふるさと納税制度について、納税額が増えるというのはいいことだが、このまま単純に喜んでいいのかという疑問がある。各自治体間の競争が過熱しており、また、現行制度もいつどうなるかわからないので、ふるさと納税に依存しすぎることがないようにと考える。

協議事項 2 小美玉市デジタル・トランスフォーメーション（DX）推進計画（実施計画）の令和 6 年度進捗状況報告

【資料 3 小美玉市 DX 推進計画（実施計画）令和 6 年度進捗状況報告（概要）】

〈事務局〉本計画は、43 の取組事項、77 の取組計画があり、事業を実際に行う課は 18 課、84 の事業を展開している。令和 6 年度中に、計画上では 79 事業を「取組開始」または「実施継続」としていたが、引き続き検証が必要な事業があり、達成した事業は 63 事業、達成率は 79.7%。「3. 令和 6 年度 DX 実施計画の主な取組実績」について、取組計画ごとに指標となるものを、計画策定した令和 4 年度の実績を基準に令和 6 年度の実績及び増加率を示している。「No.6 オンライン申請の拡充」について、令和 5 年 10 月から新たな電子申請システムを導入し、行政手続きのオンライン化を推進した結果、市民向けのオンライン申請のフォーム数と回答数が令和 4 年度は 103 件であったが、令和 5 年度は 242 件、令和 6 年度は 549 件と大幅に増加した。また、回答数について、令和 4 年度は 242 件であったが、令和 5 年度は 5,245 件、令和 6 年度は 16,022 件と大幅に増加した。「No.7 Web 口座振替受付サービスの拡充」も利用者が年々増加。対応科目数は、令和 5 年度に固定資産税などの 4 つの税だけであったが、その他口座振替対応の料金も追加したことで、令和 4 年度は申込数が 82 件であったが、令和 5 年度は 241 件、令和 6 年度は 603 件と増加している。主に、保育料や学童保護者負担金の申し込みが多く、子育て世代に需要があることが分かった。今後も引き続き周知し利用拡大を図る。そのほかの取組みにつきましても、市民サービスとともに、職員の負担軽減につながる各種施策を、まずは成功体験を感じていただき、少しずつではあるが実績を積み上げていきたい。令和 6 年度に実施したものについて、電子入札の対象を広げたこと、電子契約シス

テムを導入したことで、業者と職員の間で発生していた、紙のやり取りや双方の負担軽減に寄与した。また、保護者との連絡網ツールの導入により、学校と保護者との連絡が迅速かつ容易になった。「テレワーク実施規定案の作成」について、令和 6 年度に案を作成し、今年度、「小美玉市職員テレワーク実施要領」及び「手引き」を作成し、運用を開始した。一方、課題があり「未実施」「未検証」とした取組みもあり、特に、「子育てオンライン相談窓口」の取組みでは、オンライン相談の需要がないことから、子育てアプリから来所・電話での相談予約およびメールでの相談ができる体制を構築した。また、「未検証」とした取組みのうち、「職員の DX リテラシー向上」における「外部アドバイザー」の活用について、令和 4 年度から取り組んでいる BPR（業務改革）の取組みをさらに進めるため、令和 7 年度より外部アドバイザーを活用している。

《質疑》

〈委員〉DX について、高齢者に対して、なにかフォローできるような体制があるといい。現在、一部の行政区を対象に電子回覧板の実証実験を行っているが、利用者が伸び悩んでいる。導入に成功している自治体は、行政区からも積極的に情報発信を行っていたりするがなかなか難しく、行政からの連絡だけ回覧されているようになっており、皆さんあまり興味を持ってくれない。皆が興味を持つようなものにしないといけないと不安に思っているため、ぜひ高齢者に対するフォローをお願いしたい。

→〈事務局〉全国的に DX を推進しているが、国の方でもデジタルデバインド（デジタル格差）の対策を行うようにすすめられている。ただし、国の方で打ち出す施策としてはスマホ教室くらいであるが、それだけでいいとは思えない。今後は、デジタルでできる方にはデジタルを利用していただくことで、業務の効率化につながり、職員はデジタルが苦手な方に手厚い対応ができるようになるので、それも一つの DX の結果かなと考える。

〈委員〉高齢者へのフォローについて、他の自治体ではどのような取組みをおこなっているのか。スマホ教室は聞いたことがある。

→〈事務局〉スマホ教室以外に、高齢者の方がスマートフォンを購入する際に助成金を交付している自治体もある。

〈委員〉私自身もデジタルは得意ではないが、数値を見ると大きく伸びており驚いた。

→〈事務局〉DX を推進していく過程で様々な課題があるが、皆様からのご意見がないとなかなか進められないので、貴重なご意見をいただけるとありがたい。

〈委員〉スマホを使って自宅で手続きができるようになってしまうと、高齢者の方が孤独を感じるようになってしまう。デジタル化が進むと取り残されたように感じてしまうので、デジタル化が進めば、さらに手厚いサービスを受けられるといったことをもっと情報発信したほうがいい。

〈会長〉計画達成率が約 80%だが、事務局としては低いと考えるか、高いと考えるか。また、議会中継システムの視聴数について、令和 5 年度と比較し、令和 6 年度はなぜ下がったのか検証が必要と考える。

→〈事務局〉計画達成率について、令和 6 年度に実施とする計画であったため、もう少し頑張ったかったなと考える。ただ、需要がなかったり、予算や導入にあたっての検討がもう少し必要であったりといった課題があるため難しい。

〈委員〉行政区への案内で、議会の傍聴の案内を出しているが、そこにオンライン中継のことは記載されているか。

→〈事務局〉担当課に確認する。

〈会長〉担当課に確認いただき、記載がなければ案内に記載いただくよう検討願います。

協議事項 3 小美玉市行革・DX 推進計画（素案）について

【資料 4 小美玉市行革・DX 推進計画（素案）】

〈事務局〉本計画は、今年度で計画期間が終了する「第 4 次小美玉市行財政改革大綱及

び実施計画」と令和 8 年度で計画期間が終了する「小美玉市 DX 推進計画 基本計画及び実施計画」を改訂し、一つにまとめたものになる。(1 ページ)「1. 計画策定の趣旨・目的」で、国の動向や市の考え方を踏まえ、それぞれ独立して進めてきた「行財政改革大綱」と「DX 推進計画」は効率的な行財政運営のために今後も推進すべき取組みであり、互いに密接に関わるものであることから、一つに統合することで、より効果的な行政サービスの提供と実行性のある取組みを目指すため本計画を策定した趣旨を記載。(2～4) ページ「2. 社会情勢」では、人口動態や財政状況、デジタル化の進展といった社会情勢を記載。(5～6 ページ)「3. これまでの取組み」では、第 1 次行財政改革大綱からの主な取組みと財政効果額と、これまでの DX の取組みを年表形式で記載。(7 ページ)「4. 計画の位置付け・推進期間」では、第 2 次総合計画を行革、DX の観点から下支えるものとして位置付けていると記載。また、推進期間について、来年度から 5 年間で設定。(8 ページ)「5. 基本目標・基本方針」では、本計画の基本目標と基本方針について記載。行財政改革と DX の推進を融合し、市民にとって安心して快適なサービスを持続的に提供することを目指すことを踏まえ、基本目標を「持続可能な行財政運営による質の高い行政サービスの実現」と定めた。また、「①変革を推進する職場風土の形成」、「②部局横断的な業務変革」、「③財政健全化と持続可能な運営」という 3 つの基本方針を定めた。基本方針 1 は「ヒト」に関すること、基本方針 2 は「シゴト」に関すること、基本方針 3 は「カネ」に関することとしてまとめた。(9 ページ)「6. 推進体制」では、本計画の推進体制を図示。(10 ページ)「7. 進捗管理」では、本計画の進捗管理の流れを記載。次のページから、各論(実施計画)。11 ページから 21 ページまで、27 の取組項目を設定。今までの行革や DX の計画を踏襲し、国が定める「自治体 DX 推進計画」で定める重点取組事項を取り入れるなど、時代に合わせた計画になるよう整理した。「取組項目」、「取組概要・取組内容」、「指標」、「基準値」、「目標値」、「担当課名」を記載。22 ページは参考資料、23 ページ以降は用語集を作成予定。

《質疑》

〈委員〉行革デジタル推進課だけでなく市職員が同じように能力や意識を醸成させなければならない。同時に市民もついていかなければいけない。そうしなければ、旗を振っているだけになってしまうが、問題意識をどうやって醸成させるかが難しい。また、これだけ財政効果額が算出されているのであれば、何かしら市民に還元されているはずなので、具体的な効果をアピールした方がいい。PDCA サイクルについて、1 年かける必要はなく、早ければ早い方がいい。そういったところから意識醸成していく必要があると思う。

→〈事務局〉職員の育成という点については、DX 推進員として、25 名ほどの職員を任命し、DX の研修や BPR(業務改革)などを実施している。情報発信については、広報誌でのアピールも含めて、どのような方法が効果的か検証していきたい。

〈委員〉行革や DX を進めていく中で、以前、職員間での意識の差があると言っていたが、この数年で取組みをしていった中でどのように感じているか。うまくいった事例があれば、市民の方にも波及できるかなと考える。

→〈事務局〉体感ではあるが、継続的に行革や DX を進めていきたいと思いますと伝えてきたので、ある程度は浸透してきているのではないかと思います。ただ、意欲的な方とそうでない方の差がどんどん開いているように感じる。

→〈事務局〉何かを変革するときには、調整であったり、新たに覚えなければいけないことがあったり、膨大なエネルギーを要する。今までできていたのに変える必要はないとか、変えたら大変だという意見もあるが、まずはやってみないと大変かどうか分からないし、楽になるかもしれないので、推進部署である行革デジタル推進課が一緒になって課題を解決して進めていければなと考える。

その他（事務局からの連絡事項）

〈事務局〉今後のスケジュールについてご説明させていただく。本日も協議いただいた「小美玉市行革・DX推進計画（素案）」について、委員の皆様からいただいたご意見を踏まえ、12月議会において、市民の方から広くご意見をいただく、「パブリックコメント」の実施についてご説明し、12月中旬から1月中旬にかけて実施する。パブリックコメントを踏まえ修正したものを、委員の皆様にも再度ご審議いただき、3月の計画策定を目指して取り組む。次回の懇談会につきましては、2月頃に開催予定となっており、日程など詳細が決まったら、皆様にご連絡いたしますので、引き続きご協力願いたい。

【15：30 閉会】